

近畿地区会議ニュース



No. 29 ◆ March 2020

Kinki District Branch

令和元年度 日本学術会議 近畿地区会議の活動について

近畿地区会議代表幹事
第1部会員 伊藤 公雄
(京都産業大学現代社会学部
客員教授)

日本学術会議近畿地区会議の令和元年度の活動についてお知らせします。ご存知のように、昨年10月12日に準備していた学術講演会「日本学術会議設立70周年記念学術講演会 未来の語り口：学術からの貢献」は、台風19号の影響による交通機関の乱れや、参加者の安全面を配慮し、延期させていただきました。せっかく準備いただいた豊かな内容を含む報告をいかすべく、本年3月8日に、同様の企画での学術講演会を再度準備しましたが、今回は新型コロナウイルス感染の広がりを前に、やむなく中止という判断に至りました。

学術講演会後には、新しい企画として会員・連携会員の懇親会を準備しておりました。3月には「山極会長も交え、近畿地区会議のみなさまとの交流の場をもてるのでは」と楽しみにしていましたが、これも残念ながら中止せざるをえませんでした。

3月の学術講演会中止の判断に先立つ形で、本年2月14日に近畿地区会議運営協議会と学術文化懇談会の合同会議が開催されています。この会議において、次年度の事業計画とともに9月に予定される学術講演会についての議論が行われました。「人間は神になれるか？ 科学技術の発達と人間社会」(仮題)のような形での学術講演会の企画が提案され、その方向での準備をはじめつつあります。ただ、本年度企画した「未来の語り口」も捨て難く、次年度は二つの講演会開催も視野に入れつつ、運営協議会のみなさまと次年度の計画を策定していくつもりであります。

次年度においても、会員・連携会員のみなさまのご協力、ご支援を、心よりお願いいたします。

*** 日本学術会議近畿地区会議とは ***

日本学術会議は、科学が文化国家の基礎であるという確信の下、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、昭和 24 年（1949 年）1 月、内閣総理大臣の所轄の下、政府から独立して職務を行う「特別の機関」として設立されました。

職務は、以下の 2 つです。

1. 科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること。
2. 科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させること。

日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、生命科学、理学・工学の全分野の約 87 万人の科学者を内外に代表する機関であり、210 人の会員と約 2000 人の連携会員によって職務が担われています。

日本学術会議の役割は、主に（Ⅰ）政府に対する政策提言、（Ⅱ）国際的な活動、（Ⅲ）科学者間ネットワークの構築、（Ⅳ）科学の役割についての世論啓発です。

日本学術会議には、地域の科学者と意思疎通を図るとともに学術の振興に寄与することを目的として、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄の 7 つの地域に地区会議が置かれています。これらの地区会議は、地域の求める情報に即したテーマを設定した学術講演会の開催や科学者との懇談会、地区会議ニュースの発行などを行っています。

地区会議運営協議会は、当該地区に勤務地（勤務地がない場合は居住地）を有する会員及び連携会員の中から選出された委員で構成されており、現在、近畿地区会議においては、第 1 部会員の伊藤公雄（京都産業大学現代社会学部 客員教授）が代表幹事を務めています。

※「日本学術会議地区会議運営要綱」は以下のリンク先よりご覧ください（PDF 形式）。

<http://www.scj.go.jp/ja/scj/kisoku/15.pdf>

近畿地区会議運営協議会

代表幹事	伊藤 公 雄	（第 1 部）
	窪 田 幸 子	（第 1 部）
	小 林 傳 司	（第 1 部）
	高 山 佳奈子	（第 1 部）
	片 田 範 子	（第 2 部）
	光 富 徹 哉	（第 2 部）
	小山田 耕 二	（第 3 部）
	萩 田 紀 博	（第 3 部）
	宮 地 充 子	（第 3 部）
	梶 茂 樹	（連携会員）
	新 山 陽 子	（連携会員）

近畿地区会議事務局

〒603-8555
 京都市北区上賀茂本山
 京都産業大学 学長室（戦略企画担当）
 TEL: 075-705-2953
 FAX: 075-705-1960
 メールアドレス
senryaku-kikaku@star.kyoto-su.ac.jp

日本学術会議ホームページ

<http://www.scj.go.jp/index.html>